

文大生の 故郷と都留

14

都留で暮らして

社会学科2年

藤本かおり



都留で生活を始めてから、もう一年半が過ぎました。下宿から大学へ通う道では、今まで私が生活してきた環境とは異なる多くのことを発見することが、今になってもしばしばあります。

特に印象に残ったことは、瓦屋根を使った民家がほとんど見られないということです。同じ地方出身の友達も同じことを言っていました。都留で見られる民家の屋根は瓦とは違うもの、例えばトタン屋根などでできているように思えます。やはり気候などが異なるからなのでしょう。私の出身地、島根県東出雲町ではほとんどの民家の屋根が瓦です。日本海側の地域なので、冬には雪がけっこう降ります。昔からの人々の生活の違いからなのかもしれません。このような見過ごしてしまいそうなことにも、地域の違いのおもしろさ

を感じます。また、私から見ての都留市といえば、やはり山に囲まれているという印象を強く感じました。しかし、実家のある所にも山があるので、そんなに驚きはしませんでした。夜になると、都留では星がとてきれいに見えるところを私は気に入っています。友達と道を歩きながら星を見ていると心が休まるのです。これはやはり都留のよい所だと思います。

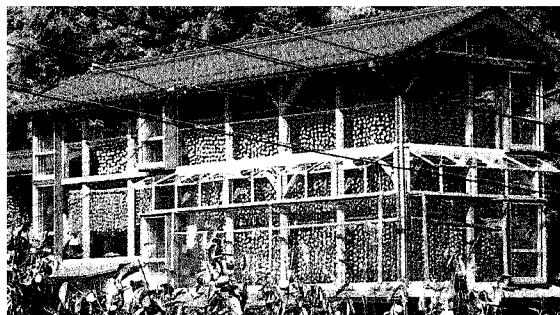
出身地である島根県東出雲町は、松江市の東隣に位置します。そして、中海という日本海の海水と宍道湖の淡水がまざりあった湖がある町です。その中海では秋になると「ゴズ」と呼ばれる魚がたくさん釣れます。「はぜ」と呼ばれるのが一般的だと思います。また、山側の地域では柿を栽培していて、秋になると「干し柿」が作られています。毎年多くの干し柿が大阪などへ向けて出荷されています。ちなみに私の実家でも干し柿を作っています。

また、島根県は古墳などの遺跡が数多くある所でもあります。以前話題になった「賀茂岩倉遺跡」での最多の銅鐸出土などや「荒神谷遺跡」での銅剣の出土などが例に挙げられます。銅鐸を実際に見に行ってきたのですが、大小様々で、大きいものになると想像以上に大きく、驚いたのを覚えています。道路工事をすれば何かの遺跡が見つかり、工事がストップして

しまうことはざらにあります。東出雲町でも、自転車で通学する道路のすぐ横の山には古墳群があったり、国分寺跡があったりするのです。そういった古代のロマンのようなものが今も生きつづけているこの町が私は好きです。

大好きな町から都留へやって来て、なじむことができるかどうか最初は不安でした。しかし、同じように全国各地から来ている友達や暮らしている都留の環境によって、今はその不安も少しは解消できたと思います。都留へ来て、私のまだ知らない全国の様々な地域においても、その地域独自の良さがいっぱいあるのだらうと考えるようになりました。

この都留での大学生活を私なりに充実したものにしていきたいと思っています。



大阪などに出荷される干し柿